

国立大学法人浜松医科大学

第14期事業年度（平成29年度）財務諸表の概要

1. 国立大学法人の財務諸表

国立大学法人は、国民その他の利害関係者に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点から財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分に関する書類、キャッシュ・フロー計算書、国立大学法人等業務実施コスト計算書）の作成及び公表が義務付けられております。

国立大学法人の財務諸表は、国立大学法人会計基準及び国立大学法人会計基準注解、並びに国立大学法人会計基準に関する実務指針に従って作成することとされています。

国立大学法人は、事業年度の終了後3月以内に財務諸表を文部科学大臣に提出し、承認を受けることとされています。また、財務諸表の提出にあたっては監事の監査のほか、会計監査人（公認会計士）の監査を受けることが義務付けられております。

2. 第14期事業年度（平成29年度）決算の概要

（1）貸借対照表

[資産の部]

資産の総額は46,873百万円です。（前年度比3,418百万円（7.9%）増）

主な内訳は土地、建物、機器等の固定資産が34,024百万円、現金・預金、たな卸資産等の流動資産が12,848百万円となっております。

【資産の主な増減等】

- ① 土地については昨年度と変動はなく、6,493百万円となっております。
- ② 建物では運営費交付金、寄附金、決算繰越金及び大学改革支援・学位授与機構施設費により総合人間科学・基礎研究棟新営その他工事他（416百万円）、運営費交付金、寄附金、決算繰越金及び施設整備費補助金により基礎臨床研究棟改修その他工事他（712百万円）、施設整備費補助金、長期借入金及び運営費交付金により基幹整備（給水設備等）工事他（115百万円）等を実施しておりますが、減価償却累計額が1,456百万円増加したこと及び減損損失累計額が35百万円発生したことにより、全体では前年度比108百万円（0.5%）減少し、20,286百万円となっております。
- ③ 構築物では前年度比13百万円（5.5%）減少し、228百万円となっております。
- ④ 工具器具備品では医療用機器等の更新及び整備を実施し、長期借入金により診断用磁気共鳴断層撮影装置（116百万円）、附属病院収入により集中治療情報管理システム（111百万円）等を購入しておりますが、リース債務等の除却に伴い減価償却累計額が1,095百万円減少したこともあり、全体では前年度比1,967百万円（61.0%）増加し、5,193百万円となっております。
- ⑤ 図書では図書館環境及び資料等の整備及び不用図書の除却により、前年度比262百万円（45.1%）減少し、319百万円となっております。
- ⑥ 投資その他の資産では満期保有目的の有価証券の取得等により、前年度比506百万円増の1,010百万円となっております。
- ⑦ 流動資産では現金及び預金が945百万円増加しており、全体では前年度比966百万円（8.1%）増の12,848百万円となっております。

[負債の部]

負債の総額は29,606百万円です。（前年度比1,920百万円（6.9%）増）

主な内訳は国立大学法人特有の資産見返負債3,155百万円、大学改革支援・学位授与機構からの借入金16,056百万円、リース債務2,403百万円、未執行の寄附金である寄附金債務2,079百万円、受託研究の複数年契約分の前受受託研究費265百万円となっております。

【負債の主な増減等】

- ① リース債務が前年度比 2,121 百万円 (752.4%) 増加し、2,403 百万円となっております。
- ② 大学改革支援・学位授与機構から基幹・環境整備 (給水設備更新等) 及び大学病院設備整備に係る 448 百万円を借入し、1,421 百万円を返済しており、借入金関係で 973 百万円減となっております。

[純資産の部]

純資産の総額は 17,266 百万円です。(前年度比 1,497 百万円 (9.5%) 増)

主な内訳は資本金が 5,317 百万円、資本剰余金が 4,606 百万円、利益剰余金が 7,342 百万円となっております。

【資本金】

資本金は、出資対象財産の評価額から、国から承継した借入金を差し引いた差額として算定する仕組みとなっているため、全額について現物出資となります。5,317 百万円で前年度 (法人化当初) から変動はありません。

【資本剰余金】

資本剰余金は国から承継された病院収入分等に加え、施設整備費補助金、目的積立金等により取得した資産相当額が計上されます。今年度は施設整備費補助金により取得した資産相当額が 700 百万円増加しており、前年度比 280 百万円 (6.5%) 増加し、4,606 百万円となっております。

【利益剰余金】

前年度分の利益処分として積立金が 546 百万円増加、目的積立金が 267 百万円増加しております。

なお、当期末処分利益 1,217 百万円 (前年度は当期末処分利益 813 百万円) を計上しているため、全体として前年度比 1,217 百万円 (19.9%) 増加し、7,342 百万円となっております。

(2) 損益計算書

[経常費用]

経常費用の総額は 29,563 百万円です。(前年度比 1,437 百万円 (5.1%) 増)

業務費は支出の目的別に教育・研究・診療等に区分して表示しており、教育経費 247 百万円 (経常費用比 0.8%)、研究経費等 2,853 百万円 (9.7%)、診療経費 14,132 百万円 (47.8%)、人件費 11,684 百万円 (39.5%) 等で、その他一般管理費 435 百万円 (1.5%)、財務費用 (支払利息) 等 210 百万円 (0.7%) となっております。

【経常費用の主な増減等】

- ① 診療経費は患者数及び稼働額の増に伴う医薬品費及び診療材料の調達増により前年度比 953 百万円 (7.2%) 増加しております。
- ② 教育研究支援経費は不用図書を除却増等により 241 百万円 (187.1%) 増加しております。

[経常収益]

経常収益の総額は 30,800 百万円です。(前年度比 1,859 百万円 (6.4%) 増)

主な内訳は運営費交付金収益 5,489 百万円 (経常収益比 17.8%)、授業料等収益 724 百万円 (2.4%)、附属病院収益 21,789 百万円 (70.7%)、受託研究収益 780 百万円 (2.5%)、寄附金収益 550 百万円 (1.8%) が主なものです。また、資産見返負債戻入 626 百万円 (2.0%) が計上されており、これは運営費交付金、授業料、寄附金及び国から承継された物品等の償却資産について、取得に際し、その同額を取得財源から貸借対照表の負債科目に振り替えておき、当該資産の減価償却処理を行う都度、その同額を取り崩して収益化し、損益に影響させない国立大学法人特有の会計処理によるものです。

【経常収益の主な増減等】

- ① 附属病院収益が手術件数の増、診療単価の向上等により前年度比 1,585 百万円 (7.8%) 増加しております。

[臨時損益]

臨時損失は 25 百万円です。(前年度比 5 百万円増)

主な内訳は、固定資産除却損 (10 百万円) となっております。

臨時利益は 5 百万円です。(前年度比 4 百万円増)

主な内訳は、資産見返負債戻入 (4 百万円) となっております。

[当期総利益]

当期総利益は 1,217 百万円です。(前年度比 403 百万円増)

(3) その他の主要表

[キャッシュ・フロー計算書]

業務活動によるキャッシュ・フロー (収入) が 4,141 百万円 (前年度比 457 百万円 (12.4%) 増)、投資活動によるキャッシュ・フロー (支出) が 2,534 百万円 (前年度比 1,536 百万円 (154.2%) 増)、財務活動によるキャッシュ・フロー (支出) が 1,660 百万円 (前年度比 63 百万円 (4.0%) 増) であり、期末資金残高 6,672 百万円 (前年度比 53 百万円 (0.8%) 減) です。

なお、貸借対照表の現金及び預金 (8,697 百万円) との不一致である理由はキャッシュ・フロー計算書において定期預金 2,025 百万円を含めていないためです。

[国立大学法人等業務実施コスト計算書]

企業会計には無い主要表として、国立大学法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられる「現在及び将来のコスト」を表示するものであり、損益計算書を基礎とし、国民の直接の負担とはならない学生納付金や附属病院収入等の自己収入を控除し、損益外処理や機会費用について加算して算定したものであります。

業務費用が 5,069 百万円 (前年度比 200 百万円 (3.8%) 減) となっており、全体として合計は 5,462 百万円 (前年度比 494 百万円 (8.3%) 減) となっております。